



2018年8月10日リアスホール(大船渡) 動物の謝肉祭コンサート © 平館 平

「被災地に音楽を」東北三県のコミュニティを文化芸術で元気にする事業

調査研究報告&シンポジウム

コミュニティと響きあうオーケストラ

日時 平成31年**3月1日**(金)

開会 午後6時(開場 午後5時30/午後9時頃 終了予定)

会場 **慶應義塾大学三田キャンパス**
G-Lab(東館6階)

日本フィルは東日本大震災の発生直後から、被災地への音楽による支援活動「被災地に音楽を」を開始し、これまで8年間で263回の活動を行ってまいりました。昨年度のシンポジウムでは「コミュニティと生きるオーケストラ」と題し、活動を意味あるものにするためにはコミュニティが持つ独自の文化的活動を支援し、活性化することが重要であるとの考えに至りました。今年度は慶應義塾大学SFC玉村研究室により事業評価の土台作りを行い、今後の方向性についての示唆を得ました。こうした知見をより多くの方にお知らせするとともに、被災地の現状を広く知っていただくために被災地での活動にご協力頂いている皆様を登壇者にお招きし、被災地の現在の課題や今後の取り組みの可能性についても考えたいと思っています。

【内容】

- 平成30年度「被災地に音楽を」事業報告
- 各地からの声(ゲストスピーチ)
- 慶應義塾大学SFC玉村研究室による「被災地に音楽を」調査研究報告
- 登壇者によるパネルディスカッション

【参加費】 無料

【申込み】

お名前、連絡先、人数とご所属をご明記のうえ、以下の方法でお申し込みください。

Email musicforest@japanphil.or.jp / Fax 03(5378)6161

締切：2月27日 ※定員100名

※定員に達し次第締め切らせて頂きます。

【問合せ】

日本フィルハーモニー交響楽団 音楽の森 Tel 03(5378)6311

主催：文化庁/日本フィルハーモニー交響楽団

共催：慶應義塾大学SFC研究所(社会イノベーション・ラボ)

【登壇者】

伊藤 哲(宮古市教育委員会)

遠藤俊一(三春町立岩江小学校校長)

三浦秀之(石巻川のプロジェクト理事・運営委員長/杏林大学准教授)

玉村雅敏(慶應義塾大学総合政策学部教授)

落合千華(慶應義塾大学SFC研究所上席所員)

平井俊邦(日本フィルハーモニー交響楽団 理事長)

別府一樹(日本フィルハーモニー交響楽団 音楽の森部長)

プロフィール

伊藤 哲

宮古市教育委員会

1965年岩手県宮古市生まれ。日本大学経済学部卒業。宮古市役所職員。東日本大震災発災直後から被災者支援室勤務。避難所の運営、仮設住宅への移転、義援金や支援物資の受入・配分、被災者の生活再建、地域コミュニティの再生などあらゆる業務に従事。平成27年度から宮古市教育委員会文化課文化係長として、多くの文化芸術による被災地復興支援活動に関わるなかで、日本フィルハーモニー交響楽団による「被災地に音楽を」活動と出会う。

中学で始めたホルン演奏を趣味とし、岩手県内のオーケストラや吹奏楽、室内楽など活発に演奏活動が続いている。盛岡吹奏楽団団員。

遠藤俊一

三春町立岩江小学校校長

1959年福島県三春町生まれ。福島県立盲学校(現福島県立視覚支援学校)、福島市、三春町、平田村、小野町の教員を20年勤める。その間、福島県現職教員海外派遣制度により、米国ウィスコンシン州立大学オークレア校の客員教員として、1年間、州内の幼稚園、小・中学校、高校、大学を訪問し、日本文化、日本の教育事情について紹介する。2011年、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故当時、勤務していた三春町内の小学校で多くの避難児童を受け入れる。その後、南相馬市立金房小学校校長として赴任するが、学校が福島第一原子力発電所から20km圏内にあるため、同市内鹿島区の仮設校舎にて学校経営にあたる。2016年より三春町立岩江小学校長。震災以降、三春町、南相馬市、葛尾村、富岡町の各学校において「日本フィルハーモニー交響楽団」が主催する「被災地に音楽を」プロジェクトコーディネーターとして関わる。

三浦秀之

石巻・川の上プロジェクト理事・
運営委員長
杏林大学准教授

1982年生まれ、宮城県出身。早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士課程修了、博士(学術)。専門は、国際関係論、国際政治経済学、通商政策論。これまでにアジア開発銀行研究所研究員、早稲田大学アジア太平洋研究センター助手などを経て現職。日本経団連21世紀政策研究所タスクフォース委員、国際協力機構(JICA)専門家、日本国際問題研究所若手客員研究員などを歴任。実家がある石巻市(旧河北町)の川の上地区において地域住民と石巻・川の上プロジェクトを立ち上げ、「まちを耕し、人を育む」を理念に掲げ活動。同取り組みを通じて、2015年度グッドデザイン賞ベスト100・復興デザイン賞、2018年度グッドデザイン賞ベスト100を受賞。

玉村 雅敏

慶應義塾大学
総合政策学部教授

慶應義塾大学総合政策学部卒業。同大学院政策・メディア研究科博士課程、千葉商科大学助教授等を経て、現職。博士(政策・メディア)。専門分野は、公共経営、ソーシャルマーケティング、評価システム設計など。新潟市政策改革本部アドバイザー、横須賀市政策研究専門委員、JICA業績評価アドバイザー、内閣官房地域活性化伝道師、天草市・鈴鹿市・市原市・大崎町・大山町・東川町・鹿児島相互信用金庫などのアドバイザーを兼務。自治体の地域戦略や地域ブランドづくり、価値共創戦略、企業のソーシャルマーケティング戦略やCSV戦略の立案・評価、社会インパクト評価、SDGs推進、生活価値や幸福度の評価手法開発などのシステム設計を手がける。

慶應義塾大学 三田キャンパス
G-Lab(東館6階)

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

東門脇の東館6階です。

東別館とは異なりますのでご注意ください。

JR山手線・京浜東北線 田町駅下車(徒歩8分) 都営

地下鉄浅草線・三田線 三田駅下車(徒歩7分) 都営

地下鉄大江戸線 赤羽橋駅下車(徒歩8分)

